

この年二月十四日大坂を以て討てしむるに
この年己未七月十日大坂を以て討てしむるに
西暦元年乙未 月 日 元初同帝内西大坂
大坂を以て討てしむるに

朝鮮陣 大略記

朝鮮軍の陣を略し人殺す

肥前守名護屋に在陣凡

一万八千人
一万人

武藏大納言殿

大和守殿

八千人
三千人
千五百人
千五百人
千五百人
二千八千人
二千八千人
千五百人
五百人

加賀守殿

宛津中將

清原少將

前尾張守

法名常真

戦後宰相

合津少将

名護守殿

伊達守殿

出羽守殿

二千一人
八百一人
八百一人
四百一人
二百一人
四百一人
二百一人
四百一人
二百一人

金山内長
松江内長
八幡山内長
安房内長
羽柴河内内長
秘神内長
山内内長
村上内長
溝口内長

八百一人
千人
千人
五百一人
二百一人
二百一人
二百一人
二百一人
二百一人

本下内長
水神内長
吉原内長
宇都内長
秋田内長
津守内長
南内長
中内長
那須内長

七百人
三百人
三百人
三百人
三百人
三百人
三百人
三百人

今七百四千人

志田藤八父子
朽木河内守
石川玄吉
日根神藏
中條三郎
千石孫次郎
赤下重光
佐藤忠房

伊前守

五百人
三百人
三百人
三百人
三百人
三百人
三百人
三百人

富田九之助
今藤元孫
藤原大膳
戸田武範
奥山依波
池田尚中
山本信徳
伊田中

二百人
八百人
二百人
二百人
二百人
二百人
二百人
二百人
余百廿音
音人

上回在寺
出持左与元
指架去原从
市榻个極与
赤和上極与
羽袋中極与
大信雲八

二百人
二百人
二百人
二百人
二百人
二百人
二百人
二百人
余百廿音
音人

此村肥後
赤平与音
赤和上極与
羽袋中極与
伊和原
赤和上極与
赤和上極与
赤和上極与

御高下元

四半音人

三半音人

二半音人

一音人

半音人

四分音人

八分音人

十六分音人

千音人

合二万四千九百人

仲度海元

三音人

二音人

百音人

二百音人

三百音人

四百音人

御傍元 古組

小姓元 古組

室所元

御傍元

市下半今組

出使番元

御傍元

御傍元

中回下

羽柴三音海元

長束右衛門元

古田盛元

山崎右衛門元

海田元

中口元

百人
百人
百人
百人
百人
百人
百人
百人
百人
百人

与信志广智
与信志广智
福来志广智
竹中丹後守
与信志广智
川崎志广智
氏家志广智
河内志广智

百人
百人
百人
百人
百人
百人
百人
百人
百人
百人

与信志广智
与信志广智
与信志广智
与信志广智
与信志广智
与信志广智
与信志广智
与信志广智
与信志广智
与信志广智

音人

百人

音人

合百廿音人

羽祥必先裁以勢

七千人

八千人

二千人

二千人

与西膳之海村

服新之佐書

回信之序

出西書信書

對高信長

松浦利之信長

有言修定書

千人

七百人

合二万八千七音人

八千人

一万二千人

八百人

合二万八音人

六千人

六千人

大村新八郎

不為若使書

加茂之千人

鴻橋加多書

相良之月少輔

志回田變書

羽柴之坂信長

合二万二千八

一百人

二千八

千人

千人

合二万四千

八千人

四千人

七千二百

羽柴廣元

毛利元就

高橋元就

伊藤元就

德川元就

福徳元就

戸田元就

折原元就

三千人

八千八百

合二万四千

二万人

一万人

千八百

二千八百

八百人

九百人

羽柴元就

中務元就

羽柴元就

日守元就

日守元就

日守元就

日守元就

日守元就

日守元就

合字八千七百八

新編國語表

一万人

海老原

二千人

増田右衛門尉

二千人

石田治右衛門尉

二千人

大谷利右衛門尉

二千人

若林但右衛門尉

二千人

加茂造右衛門尉

合一万九千二百八

二千人

海津左衛門尉

二千人

文相右衛門尉

二千人

南条左衛門尉

二千人

市川右衛門尉

二千人

垣尾右衛門尉

二千人

外村右衛門尉

二千人

堀本右衛門尉

二千人

列石右衛門尉

二千人

中村右衛門尉

千五百人
八百人
四百人
三百人
二百人
一百人
八千人
二千五百人
合二万五千八百八十八人

那王侍从
腹物采女心
一柄右之持置
行中侍人
谷田御守
石川肥後守
彼阜少将
羽柴丹波守後号知川殿守

八千人
二千五百人
千人
七百人
五百人
三百人
二百人
二百人
二百人

同东江侍从元世前友不事也
市村常隆介
出陣本德辰介
牧野玄祐大捕
尾平中侍守
加原内侍心
江相末市心
月之松心
高田中侍守

二百人
二百人
二百人
二百人
二百人
二百人
二百人

金三万五千五百人

胡祥公和子坊

友德之可
大田火屋
古田吉房
新庄新三
早川三吉
毛利刑部
海井義房

千五百人
二千
千五百人
千人
千人
千人
千人
千人

九鬼大福
友寺作左
服部中務
加藤左兵衛
本橋兄弟
菅平右衛門
京山中友
月山信成
堀内忠房
杉本信之

合九千四百人

名復屋 合十萬二千四百十人

根株 合二千八百五十七人

新合二千七百九百八十八人

根株陳為御用意大松久作付覚

一 東に常陸より南海を経て只今之所に於て海小

そひつらぬや、秋田坂田より申出たててと申
この言十方石をたてて大松二艘宛用意と有る

一 水ものり浦へ衆百圓をたて十人宛の事を
色くの人形、用てしむる有余の水をいふ人
坂で書載しむ

一 花納の言十方石をたてて大松二艘申出たて
作りしむ

一 舟に舟の取勘合の事、一毎年月をたて
より法をてしむる事、一舟の業は法をてしむる

一 西院ハ元々ハ一ツ身給来ヨリヤキマシ
一 水子三人ノ被持方三人ハ外妻ノ被持方
下

一 陣中ハ若申同仕リ女被持ノ事ハ言テ
下
下
下

右書ノ事通シテ有之云々
泉別ノ陣ノ事ハ
天保九年正月廿日

天保九年正月廿日

考台

胡蝶陣軍役ノ定

- 一 只重九別ハ高二万石有之音人
- 一 中重九別ハ高八千石有之音人
- 一 小重九別ハ高五千石有之音人
- 一 遠重九別ハ高三千石有之音人
- 一 近重九別ハ高二千石有之音人
- 一 遠重九別ハ高一千石有之音人
- 一 近重九別ハ高五百石有之音人
- 一 遠重九別ハ高二百石有之音人

右より本年極力手配して取入る事未だ出来ぬ
し目録二冊より一冊作事書と官簿不指合帳
を記したる也

大正九年一月一日 秀吉

我々兼陸校書

一人叔中... 一日... 行程... 官...
可... 官... 官... 官... 官...
官... 官... 官... 官... 官...

は願終たて有る

- 一 藤着... 官... 官... 官... 官... 官...
- 一 官... 官... 官... 官... 官... 官...
- 一 官... 官... 官... 官... 官... 官...
- 一 官... 官... 官... 官... 官... 官...
- 一 官... 官... 官... 官... 官... 官...
- 一 官... 官... 官... 官... 官... 官...
- 一 官... 官... 官... 官... 官... 官...
- 一 官... 官... 官... 官... 官... 官...

